



## 2024年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年7月26日

上場会社名 株式会社 エヌ・ティ・ティ・データ・イントラマート

上場取引所 東

コード番号 3850 URL <http://www.intra-mart.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中山義人

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 管理本部長 (氏名) 鈴木誠 TEL 03-5549-2823

四半期報告書提出予定日 2023年7月31日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年3月期第1四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	1,762	12.9	55		36		21	
2023年3月期第1四半期	2,023	21.9	184	24.5	180	15.5	119	8.9

(注) 包括利益 2024年3月期第1四半期 21百万円 (%) 2023年3月期第1四半期 118百万円 (9.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	4.40	
2023年3月期第1四半期	24.70	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第1四半期	7,840	4,534	57.8	935.95
2023年3月期	7,477	4,725	63.2	975.42

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 4,534百万円 2023年3月期 4,725百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期		0.00		35.00	35.00
2024年3月期					
2024年3月期(予想)		0.00		35.00	35.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,350	4.8	200	75.3	200	73.9	140	65.0	28.90

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期1Q	4,955,000 株	2023年3月期	4,955,000 株
期末自己株式数	2024年3月期1Q	110,331 株	2023年3月期	110,331 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期1Q	4,844,669 株	2023年3月期1Q	4,844,695 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書 .....	6
第1四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	7
(セグメント情報等) .....	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国の経済は、経済活動の正常化に向けた動きが進み、景気は緩やかな回復基調にあるものの、ウクライナ情勢の緊迫化や世界的な金融引き締め等により、エネルギーコストや原材料価格の高騰により、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社グループが事業を展開する情報サービス産業におきましては、生産性向上や業務効率化、新しい働き方を目的としたDX化に引き続き高い関心と期待が寄せられております。企業の競争力強化に向け積極的な情報システム投資が予想されます。

このような情勢のもと、当社グループは「①ローコード開発ツールの充実とシェア拡大」「②業務アプリケーションのターゲット市場を拡大」「③クラウド・サブスクリプションへの転換」「④ビジネス変革全般のサポート強化」を重点方針として掲げ、業績の向上に努めてまいりました。

具体的には「①ローコード開発ツールの充実とシェア拡大」として、ファーストアカウンティング株式会社（本社：東京都港区 代表取締役社長：森 啓太郎）とアライアンスパートナー契約を締結いたしました。支払関連書類ソリューションで売上No. 1（株式会社MM総研「経理DX領域におけるAI-OCR市場動向調査」2022年版）を誇り、経理業務に豊富な知見を持つ同社との協業により、電子帳簿保存法、インボイス制度への対応や経理業務の自動化を促進し、ペーパーレス化の実現と企業の経理業務のDXを一層支援します。

大日本除虫菊株式会社（本社：大阪市西区、代表取締役社長：上山 直英）が効率的な社内システムの内製化を目的に、I&H株式会社（本社：兵庫県芦屋市、代表取締役社長：岩崎 裕昭）が業務のデジタル化、データドリブン経営を目的にローコード開発プラットフォームに「intra-mart®」を採用しました。今後も、ローコード開発と業務プロセス全体の自動化・デジタル化によるお客さまのDX実現に貢献します。

「②業務アプリケーションのターゲット市場を拡大」として、業務特化型ソリューションのさらなる充実を図るにあたり、株式会社プロレド・パートナーズ（東京都港区、代表取締役：佐谷 進）より購買SaaS事業を譲り受け、「intra-mart Procurement Cloud」として新たに展開することとなりました。本事業は、企業の支払いデータの可視化・分析や、請求書のデータ化・管理モニタリングなど、企業の調達・購買活動全般のDX化を推進するクラウドサービスで、今後の事業拡大への貢献が期待されます。

「③クラウド・サブスクリプションへの転換」として、Digital Process Automation Platform「intra-mart®」を年間利用型「Customer Success License」として2023年4月より提供を開始いたしました。年間利用型の販売方式によって製品/サービス導入後のカスタマーサクセスを一層強化するとともに、運用データを活用することでお客さまにおける利活用を促進し、継続的な企業のDXを実現してまいります。また、クラウドサービス「Accel-Mart Plus」の新たな機能として、モバイルデバイスで様々な業務アプリケーションを利用できる「Accel Platform Mobile」をリリースいたしました。フロント部分をネイティブアプリ化することでより洗練されたUI/UXへアップデートし、直感的でシームレスな操作性と軽快な応答性によってスピーディーな価値提供を実現します。

「④ビジネス変革全般のサポート強化」につきましては、当社が運営するユーザー会「intra-mart User Group」の会員企業数が140社を超え、IT技術者の育成及びICTに関する情報共有/情報発信等を通じ、顧客リレーションを強化してまいりました。

この結果、当社グループの2024年3月期第1四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高1,762,082千円（前年同四半期比12.9%減）、営業損失55,987千円（前年同四半期は営業利益184,492千円）、経常損失36,161千円（前年同四半期は経常利益180,084千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失21,306千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益119,676千円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりです。

#### ①ソフトウェア事業

「intra-mart」は新たにサブスクリプション型のライセンス販売を開始しました。受注は堅調に推移したものの、従来の売切り型ライセンス販売からサブスクリプション型ライセンスやクラウド型サービスへのシフトが進んだ影響により、全般堅調に推移しました。

この結果、売上高は1,130,050千円（前年同四半期比3.5%減）となりました。

#### ②サービス事業

「intra-mart」を利用したシステム開発やコンサルティングなどの周辺サービスは、パイプラインは引き続き堅調ではあるものの、一部受注時期の遅れ等の理由により、全般に低調に推移しました。

この結果、売上高は632,032千円（前年同四半期比25.9%減）となりました。

（2）財政状態に関する説明

①資産

当第1四半期連結会計期間末における資産は、サービス提供に用いるソフトウェアが増加した事により、7,840,177千円となり、前連結会計年度末に比べ362,609千円、4.8%増加となりました。

②負債

当第1四半期連結会計期間末における負債は、ソフトウェア事業における従来の売切り型ライセンス販売からサブスクリプション型ライセンス等へのシフトが進んだ影響により、年間ライセンス料及び従来の製品保守の未経過分である契約負債が増加した結果、3,305,794千円となり、前連結会計年度末に比べ553,827千円、20.1%増加となりました。

③純資産

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、配当金の支払いにより、4,534,382千円となり、前連結会計年度末に比べ191,217千円、4.0%減少となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2023年4月26日の『2023年3月期 決算短信』で公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,314,700	3,646,946
売掛金	1,086,747	484,360
契約資産	121,738	233,024
その他	222,062	401,296
流動資産合計	4,745,248	4,765,628
固定資産		
有形固定資産		
建物	254,617	254,617
減価償却累計額	△118,504	△151,641
建物(純額)	136,113	102,976
工具、器具及び備品	138,444	139,033
減価償却累計額	△98,522	△103,608
工具、器具及び備品(純額)	39,922	35,424
有形固定資産合計	176,035	138,400
無形固定資産		
ソフトウェア	1,060,527	1,821,705
ソフトウェア仮勘定	754,806	238,838
その他	72	72
無形固定資産合計	1,815,406	2,060,616
投資その他の資産		
投資有価証券	167,744	178,297
敷金及び保証金	211,325	320,505
繰延税金資産	361,768	376,623
その他	39	104
投資その他の資産合計	740,877	875,530
固定資産合計	2,732,318	3,074,548
資産合計	7,477,567	7,840,177

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	422,123	298,873
未払金	189,019	180,010
未払法人税等	66,502	8,029
契約負債	1,188,654	1,983,328
賞与引当金	142,612	42,342
完成工事補償引当金	50,150	6,300
資産除去債務	57,068	57,109
その他	49,787	123,279
流動負債合計	2,165,917	2,699,273
固定負債		
退職給付に係る負債	548,519	568,911
資産除去債務	37,529	37,609
固定負債合計	586,049	606,521
負債合計	2,751,967	3,305,794
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	738,756	738,756
資本剰余金	668,756	668,756
利益剰余金	3,686,001	3,495,132
自己株式	△398,698	△398,698
株主資本合計	4,694,815	4,503,945
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	30,785	30,437
その他の包括利益累計額合計	30,785	30,437
純資産合計	4,725,600	4,534,382
負債純資産合計	7,477,567	7,840,177

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	2,023,442	1,762,082
売上原価	1,196,217	1,028,317
売上総利益	827,225	733,765
販売費及び一般管理費	642,733	789,753
営業利益又は営業損失(△)	184,492	△55,987
営業外収益		
受取利息	9	4
受取配当金	6,048	8,704
持分法による投資利益	—	10,552
為替差益	1,913	559
その他	21	5
営業外収益合計	7,992	19,825
営業外費用		
持分法による投資損失	12,400	—
営業外費用合計	12,400	—
経常利益又は経常損失(△)	180,084	△36,161
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失(△)	180,084	△36,161
法人税等	60,407	△14,855
四半期純利益又は四半期純損失(△)	119,676	△21,306
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失(△)	119,676	△21,306
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△1,196	△347
その他の包括利益合計	△1,196	△347
四半期包括利益	118,480	△21,654
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	118,480	△21,654



(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	ソフトウェア事業	サービス事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	1,170,620	852,822	2,023,442
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,127	280	2,407
計	1,172,747	853,102	2,025,850
セグメント利益	322,691	122,277	444,968

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	444,968
セグメント間取引消去	△142
全社費用（注）	△260,333
四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益	184,492

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	ソフトウェア事業	サービス事業	合計
売上高			
外部顧客への売上高	1,130,050	632,032	1,762,082
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,684	7,194	8,878
計	1,131,734	639,226	1,770,961
セグメント利益	201,699	77,639	279,338

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

(事業譲受による資産の著しい増加)

当第1四半期連結会計期間において、株式会社プロレド・パートナーズからプロサインBSM事業を譲り受けることとなり、これにより、前連結会計年度末に比べ、当第1四半期連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、ソフトウェア事業において216,333千円増加しております。

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	279,338
セグメント間取引消去	△1,487
全社費用（注）	△333,837
四半期連結損益及び包括利益計算書の営業損失（△）	△55,987

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。